ファミリー・サポート・センターってこんなところです。

登録から活動終了までの流れ

支援会員

支援会員研修会受講後、
支援会員として登録されます。

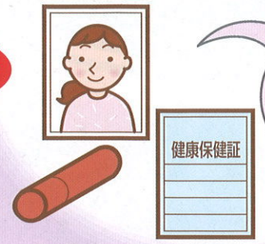
依頼

センター

紹介・連絡調整

依頼会員

センターに来所し手続き後、
依頼会員として登録されます。



持ち物
- ○保護者の写真
- ○印鑑
- ○健康保険証

事前打合せ

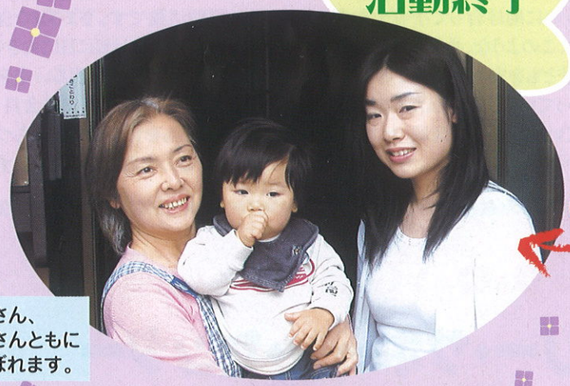
依頼会員さんと、お子さんが支援会員さんの家にスタッフと一緒に行ってサポートについての詳しい打合せをします。

支援会員Fさん宅にて。
依頼会員TさんとRくん。
センタースタッフ

活動開始

サポート中です

活動終了



支援会員さん、
依頼会員さんともに
笑顔がこぼれます。

会員さんの声

支援会員（YさんとSくん）

4月からお預かりしているSくんは、生後10カ月の赤ちゃん。一番好きなものはママのおっぱい。でもママの職場復帰で、はじめての保育園、ママの実家、そしてまったく知らない我が家にやって来ました。4月当初は、ストレスからか、園も休みがちでした。今、前おんぶされ寝ているSくんのその小さな手は、いつも私の胸のあたりにあります。大好きなママのおっぱいを思い出しているのかのように…。少しづつ環境の変化を受け入れながら、ママのお迎えの嬉しさを満面の笑みで表現するSくん。その笑顔を私にも見せてくれる日を楽しみにしながら、お預かりしています。

依頼会員（KさんとSくん）

4月から保育園入園が決まりましたが、1歳までは朝8:30～夕方5:00までが、保育時間ということで、夫と私が送り迎え出来ないので、ファミリーサポートを利用する事にしました。4月当初は、ちょうど人見知りが始まり泣いて過ごす事もあったようですが、やさしく見守り接して頂きました。最近は、だいぶ慣れてきたようで、落ち着いてお昼寝も出来るようになったみたいです。また、その都度その日の子どもの様子をくわしく話して頂けるので、安心できます。依頼回数が多い方ですが、毎回同じ方に預って頂けるので、親としても安心してお願いでき、とても助かっています。

援助活動報告書からの声

保育園にお迎えに行き 支援会員宅でお預かりのサポートです

●我が家の息子と仲良く遊び笑顔がたくさんみられこちらも嬉しくなりました。夕食はおなかがすいていたようでペロリと食べ（カレー）、りんごも「おいしい!!」とよく食べてくれました。

児童ホームへお迎えに行き 自宅に送るサポートです

●帰りみちで将来の夢は「パティシエか看護師!」と、言っていたのでどちらにも向いているけど「パティシエになったら大きなケーキ{果物がいっぱい}を作ってね。」と頼んだら「きっちりお金はもらうよ」とのけぞって大笑い。そんな会話を交わしながら帰ってきました。

開所6年目を迎えて

小児療育相談センター 子育て支援事業総括コーディネーター　菅井正彦

「ご面倒かけました。助かりました」（依頼会員）「いえいえ、私（たち）の方こそ楽しませてもらいましたよ。」（支援会員）こういう会話が秦野市内のそこここでかわされるようになって早や6年。平成12年の10月、神奈川県下で2番目、つまり先駆け的な事業として秦野市でスタートした「ファミリー・サポート・センター」。毎年、着実に増えつづけている会員数、利用件数。それに伴って市内のあちこちでかわされる前述のような会話も増え続けています。「働く女性の仕事と育児の両立支援」を目的に、平成6年に旧労働省（現・厚生労働省）がスタートさせたこの事業も年を経るにしたがって様変わりし、全国的にみてもいろんな保育ニーズに対応できる活動として展開されるようになってきています。なかには、子連れでは行けない用たし、母親自身の通院などの他に、日々子どもと二人きりという孤立・閉塞状態からのリフレッシュ（息抜き、気晴らし）のための利用も少しづつ出てきています。いつでも預けられる人がいる—これは想像以上に大きな意味があります。毎日の子育て生活に「ゆとり」をもたらしてくれるからです。そのような人と人とのつながり感がある地域を《コミュニティ》と呼ぶとしたら、いま秦野市にはその萌芽が生まれ、育ち始めている、といっても過言ではないと思います。